



写真/HCU病棟



HCUを開設して

病院長 富所 隆

2019年4月1日から当院ではHCU (high care unit : 高度で緊急を要する患者さんの治療を行うための病棟) が稼働します。病床数は12床で、看護師は一般病棟 (7対1 : 患者さん7人に対して看護師1人) より多く、4対1の人数で配置されています。内科や外科などの診療科の枠を超えて、大きな手術の後の患者さん、重症の救急患者さん、一般病棟では治療困難な患者さんなどを対象に、

医師、看護師、臨床工学技士などによる医療チームで365日、24時間体制で治療、看護にあたります。

昨年当院に救急車で搬送されてきた患者さんは3000名を超えています。もちろんすべての方が重症患者さんというわけではありませんが、HCUで集中的に医療行為や手厚い看護が行われることで、患者さんにより大きな安心を感じて頂けるものと期待しています。

また、一般病棟で働く職員にとっては、重症患者さんがHCUへ集中することで、他の患者さんへの看護に集中でき、今以上に患者さんに寄り添った看護が提供できると思っています。

このHCUを一つのステップとして、さらに、地域の方々の信頼を得られるような病院づくりを心がけていく所存です。

腫瘍内科ってどんな科？

2人に1人が「がん」にかかり、3人に1人が「がん」で亡くなる時代です。「がん」は怖い病気とされていますが、すぐに命に関わる状態のことは決して多くありません。逆に手術したら完治ではないこともあります。手術、抗がん剤、放射線など様々な治療を組み合わせることで仕事やよい日常生活を過ごせることが治療の目標です。

腫瘍内科は原則として「がん」と診断された後に受診をします。抗がん剤治療を中心として、その人のその時の状態にどんな治療が一番適しているのが相談し、車のナビゲーターが道に迷わない手助けをするように、がん治療の案内人の役割を目指しています。専門の治療に関しては各分野と連携し、治療の初めから痛みや生活のケアもできるように心がけています。時には抗がん剤治療をやめよう、という提案をすること

もあります。

「がん」の治療は新薬の開発、免疫治療、遺伝子治療などの発達が進んで、これまでの10年で大きく変わり、これからの10年でさらに変わっていくとされます。あふれる情報で不安だけにならないように一緒にがんと生きる生活のお手伝いが少しでもできれば幸いです。



記事担当

内科部長 小林 由夏

がん相談支援センターについて

がん相談支援センターでは、患者さんや家族または地域の方々へ、がんに関する相談をお受けしたり、情報提供をしています。

突然自分や家族ががんにかかったとなると分かった時から急にいろんな問題に直面します。

例えば、がんと言われてどうしよう、治療方針や医療費のこと、仕事との両立、介護が必要になった、またどんなことを聞いていいかわからない…など、内容はいろいろなものだと思います。

症状の診断や治療方針を検討する場所ではありませんが、医療ソーシャルワーカーがよろず相談として面接や電話でうかがい、一緒に整理しながら解決の方向を探っていきます。相談は無料です。

その他に、がんに関する書籍やパンフレットを各種置いてあります。また毎月第4木曜の14時～15時には、病気や暮らしで気になることを話し合い分かち合う場所としてがんサロンを開催しています。

ご希望に応じて院内スタッフや地域の関係機関とも連携をとることが可能です。

最適な治療・療養方法を患者さん自身で選択できるというのは、私たち病院スタッフにとっても重要なことです。

もし気になることがありましたら、どうぞがん相談支援センターにお声掛け下さい。

相談時間：午前9時から16時

相談日：月～金曜日（休診日をのぞく）

場所：1階18番がん相談支援センター

相談方法：直接お越しいただくか、電話でご相談ください。（お越しいただく際は事前にご連絡いただきますとお待たせしません。）

記事担当

医療ソーシャルワーカー 小川 雅代

健診センター



健診センターの主な仕事の内容は、人間ドック、事業所健診、特定健診、特定保健指導です。

人間ドックは、ほぼ毎日、健診センターにて実施しています。検査、診察、結果説明（当日わかる検査結果について）まで1日で行います。対象の方で希望する方には後日、特定保健指導も実施しています。

事業所健診は、月に2～4回、健診センターにて実施しています。受診者様が30名以上の場合は出張健診も行っています。

その他に長岡市の特定健診や、事業所のインフルエンザ予防接種なども行っています。

健診センターの構成メンバーは、医師、保健師、看護師、管理栄養士、視能訓練士、事務員、運転手と多職種ですが、その他に放射線科、検査科、内視鏡室、病理部など多くの部署と連携して健診業務を行っています。

日々のミーティングにより反省点や意見を出し合ったり、他部署と連携を密にすることにより、これからも地域の皆様の健康づくりのお役にたてるよう、より一層、サービスの充実と質の向上に努めて参りたいと思います。

記事担当：事務主任 佐藤 江利子



栄養科
ワンポイント
コーナー

季節の行事食～端午の節句～ 柏餅・粽



世界には、様々な「行事食」があります。行事食とは、季節毎やお祝いの際に食べられる特別な料理の事。旬の食材を取り入れたり、無病息災・子孫繁栄など、家族の健康や幸せを願いが込められています。今回は、端午の節句の行事食、柏餅・粽についてご紹介したいと思います。

○柏餅…柏餅は江戸時代頃より、広く食べられるようになったと言われています。柏餅を包んでいる柏の葉。その木である柏は、古くから神聖な木とされています。新芽が出ないと古い葉が落ちないので、「後継が絶えない」「子孫繁栄」の意味が込められています。

○粽…粽が食べられるようになったのは、中国の故事が由来とされています。5月5日が政治家であり詩人であった「屈原」という人物の亡くなった日。供養のためのお供え物を、無事に送り届けるために、葉で包み、邪気を払う5色のヒモで縛った事から、「厄除け」の意味があるとされています。

このように、由来や起源を知ると、より行事食を楽しむ事ができると思います。食べるだけでなく、どんな願いが込められているのか、調べてみてはいかがでしょうか。

病院からのお知らせ

✓ HCU病棟内覧会及び市民公開講座が開催されました

去る平成31年3月23日午後、当院3階に開設されたHCU病棟の内覧会及び市民公開講座が開かれました。当日は近隣市町村の行政担当者、長岡市医師会、JA越後ながおか、JA越後さんとう、さらに地域の皆様より多数ご来院いただきました。市民公開講座では長岡市内の救急医療情勢について、長岡市消防本部、長岡市医師会長 長尾政之助先生、と当院内科部長 中村祐一先生によるリレートークが行われました。

市民公開講座 講演タイトル

「安心できる地域医療の普及のために」
～救急車のその先は？
知って納得、地域の医療～



✓ 総合案内(患者サポート窓口)のお知らせ

病院の中でどこに相談したらよいかわからない時の窓口です。受診の相談、初診や再診の手続き方法、緊急時は各外来に連携します。面会に来られた方はプライバシーに配慮しご案内します。患者さんのお困りごとに応じて外来や医療福祉相談室、薬局、栄養科など院内全ての職種へ連携し、安心して受診、療養ができるようお手伝いします。お気軽に相談ください。



✓ 中央看護専門学校卒業式が行われました

平成31年3月7日中央看護専門学校卒業式が執り行われました。第60期生70名が学校長より卒業証書を授与され学び舎を巣立ちました。4月からは県内の厚生連病院に配属され看護師としての道をスタートさせます。3年間の学びを活かし、大きく羽ばたいてほしいと願っています。



✓ 患者満足度調査協力ありがとうございました

平成30年9月10日～9月14日に、当院へ通院されております患者さんと入院患者さんを対象に調査を実施しました。アンケートには1,344名(外来1,074名、入院270名)の方からご協力いただきました。当院の総合的な評価として「満足している」と概ねの方から評価をいただき、職員一同安堵しております。しかしこの評価に怠ることなく、少数の厳しい意見に真摯に耳を傾け、より多くの患者さんから更にご満足いただけるように職員一同努力してまいります。

